

# 生活リハビリテーションセンターだより

## 研修会報告

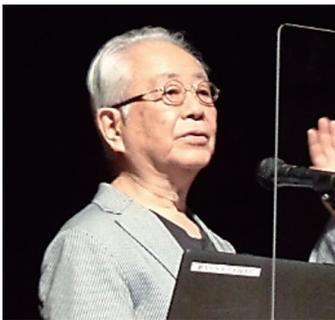
令和2年度 堺市高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業

### 第3回研修会「こどもの高次脳機能障害

### ～頭のけがや病気の後で知っておきたい大切なこと～

令和2年10月11日(日) 堺市立東文化会館において、「こどもの高次脳機能障害～頭のけがや病気の後で知っておきたい大切なこと～」と題した講演会を開催しました。

講師には、大阪市立総合医療センター小児神経内科の九鬼一郎先生をお迎えし、また座長は、なやクリニック高次脳機能外来の医師で、当センターの嘱託医である納谷敦夫先生にお務めいただきました。



なやクリニック  
納谷敦夫先生

講演に先立って、座長の納谷先生から「なぜ今、子どもの高次脳機能障害について考えるのか?」と題して講演会テーマの背景についてのお話をいただきました。事故や病気で高次脳機能障害となった子どもが、違和感を抱きながら学校生活を

を送り、いじめや不登校などを経験していることが少なくないこと、その原因がわからないまま社会に出てからもうまくいかず、大人になって初めて受診して高次脳機能障害と診断される方がいることなどをお話しされ、周囲が「高次脳機能障害」を理解し適切な対応をすることの大切さについてご説明いただきました。



大阪市立総合医療センター  
小児神経内科 九鬼一郎先生

講師の九鬼先生からは、「こどもの高次脳機能障害の理解と支援 ー 日常診療でも遭遇する目に見えにくい隠れた障害 ー」と題してご講演をいただきました。まず初めに、高次脳機能障害について、脳のしくみとその損傷部位から起こりうる

症状をわかりやすく説明された後、高次脳機能障害の概念確立までの経過、成人と小児の高次脳機能障害の違いについて詳しくお話しくださいました。また、九鬼先生らが大阪小児科医学会病診連携部会障害児問題検討委員会において実施した「後天性脳損傷を認める学童の生活実態に関するアンケート調査」の結果から、学習面や生活面での不安、周囲からの理解や合理的配慮の得にくさ、相談窓口やリハビリ施設の不足などの親御さんの不安な思いについて紹介いただきました。子どもは比較的早い段階で学校などの元の生活に戻るため、特に学校生活の中で「何となく以前と違う」ことを先生方が見逃さず適切に対応することが、その後の成長に大きく影響するとのことでした。

質疑応答では、これまでのご苦勞や社会資源の不足などについて親御さんからの生の声をお聞きすることができました。特に子どもの高次脳機能障害に関する社会資源はまだまだ少なく、医療・福祉・教育の連携が重要であると改めて感じた講演会となりました。



## 訓練プログラムのご紹介

### ～模擬テレワーク、はじめました (ICTを活用したプログラムの取組み)～



コロナ禍にあって大きく変わったことのひとつに「テレワーク」が挙げられます。それまでなじみの薄い言葉でしたが、今ではすっかり定着してきたように思います。当センターの利用者様やご家族の方の中でも、テレワークで業務を行っているという声も耳にするようになりました。さらに医療や福祉の分野においてもICT「Information and Communication Technology」(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)活用が進められてきています。この流れを受けて、生活リハビリテーションセンターでも本格的に訓練プログラムを取り入れることになりました。

具体的には、通常行っているプログラムの一部を「遠隔で」行うというものです。今回は「メモとり」プログラムを一部の参加者に対して遠隔で行った内容をご紹介します。「メモとり」は、話を聞きながらメモをとり、後で再生する練習をします。記憶の代償手段としてのメモの能力を高めること目的としたプログラムです。

事前にWeb会議プログラム (Zoom) のミーティングルームへ入室するためのIDとパスワードをメールで送

信しておきます。訓練参加者は各々に届いた招待メールからZoomを起動し、ミーティングルームへ入りませす。ヘッドセットを装着し、マイクや音量、Webカメラの調整が済めば、いよいよ会議 (訓練) の開始です。職員は別室からZoomを使って講義を行います。



参加者は慣れない環境に戸惑いながらもメモを取ります。いつもであれば解答用紙が配られるところですが、今回は添付ファイルで参加者に配信されたものを各自でダウンロードし、答えを直接パソコンで打ち込み、最後にデータで提出するという方法に取り組んでいただきました。まさに、普段の訓練プログラムを「ICTの活用」で行う40分間となりました。

参加者からは「初めてのことで難しかったけど面白かった」など、いつもと違う訓練形態に思わぬ刺激を受けたようでした。

コロナ禍で皆さん大変なご苦勞をされている時ですが、ICT活用という新しい時代の始まりになるかもしれません。今後も時代の流れに合わせて様々な新しい取り組みを行い、訓練水準の向上に努めていければと考えています。



### 卒業生の声

テレワークについて、生活リハビリテーションセンターを利用した後、すでに就労している方々にお話を伺いました。現在リハビリをされている方の参考になればとインタビューにお答えいただきました。

#### Aさん

「復職した時には、すでに会社ではテレワークが導入されていました。そのような中で、復職したという実感を持ってもらうためと直接のサポートを行うことを目的に週1回の出勤を行うという復職プランを立ててもらいました。テレワークで会社のシステムにログインした際に、上司の「病前に担当していた業務が気になって無理をしてしまうだろう。」という配慮から、閲覧権限などを会社側から設定してもらうなど、つつい頑張りすぎる性格を見越した環境設定をしてもらいました。正直、テレワークだけでは仕事に戻ったという実感は少ないですが、出勤日の通勤疲れと事務所の雰囲気を感じることで復職の実感が湧いてくるような気がしています。テレワークという環境が自分の復職には良かったと思います。復職するためには役職にとらわれず、自分の仕事を『ちゃんとする』ことが大切です。無理をせず少しずつ会社の期待に応えていきたいと考えています。」

# 新春交流会

当センターでは、毎年「新春交流会」を実施しています。現利用者様と訓練を終了した元利用者様・ご家族の交流の場として、また、訓練を終了した先輩の体験談を聞く機会として、毎年多くの方にご参加いただいている行事です。しかしながら、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で多くの方が集まることができないため、開催について検討を繰り返し「オンラインを併用した新春交流会」を企画しました。



## 第1部 訓練卒業生の話聞く



浜西さんは大学を卒業され、就職のため勤務地へ引っ越しの際に大きな交通事故に遭われました。また、内定

新春交流会ではお馴染みとなった「訓練卒業生の話聞く」イベントを今年も行いました。今回は昨年訓練を終了し、現在他県で就労している浜西雅文さんにお越しいただきました。浜西さんは大学を卒業され、就職のため勤務地へ引っ越しの際に大きな交通事故に遭われました。また、内定

を受けていた企業からの協力もあり、病院とセンターでのリハビリを経て、約2年遅れての就職を果たされました。お話は頭部外傷の受傷前から現在の就労までに起こった出来事とその時々的心境について、対談形式で振り返ってもらいました。「初めのうちは生活リハに行くのが嫌だった」「スポーツや調理が楽しかった」「就労ゼミで思うようにいかず苦労した」などのエピソードが語られ、会場もウェブ参加の方々も笑いあり、大きくうなずいて共感ありの時間でした。貴重なお話をしてくださった浜西さん、ありがとうございました。来年の同イベントでお話をしても良いという方、ぜひスタッフまでお声掛けください♪

## 第2部 当事者交流会



になったこと」「10年後の自分」「通所当初の自分へアドバイス」などのお題に合ったトークを当事者様にいただきました。「通所当初の自分に、『今は行くのが嫌

ただ、そのうち楽しくなるよ』と言ってあげたい」「最近食べたおいしかったものは“妻の作ったハンバーグ”です」などのトークに笑ったりうなずいたり。また、ご自宅からオンライン参加されている方から、ご自身の描いた絵を見せていただいたり、ペットの猫が登場する場面もありました。来所しているだけではわからない部分を見られたことで、オンラインならではの交流もできた貴重な時間となりました。

ただ、そのうち楽しくなるよ』と言ってあげたい」「最近食べたおいしかったものは“妻の作ったハンバーグ”です」などのトークに笑ったりうなずいたり。また、ご自宅からオンライン参加されている方から、ご自身の描いた絵を見せていただいたり、ペットの猫が登場する場面もありました。来所しているだけではわからない部分を見られたことで、オンラインならではの交流もできた貴重な時間となりました。



## 第3部 家族懇談会

家族懇談会には、オンラインで5組のご家族が参加されました。初めて顔を合わせるとご家族の方もおられ、自己紹介から始まり、当事者様に対する思いやお困り事などを積極的にお話しくださいました。「防災」というキーワードが出たことをきっかけに、実際に災害が起こった場合のご家族間での決め事などについて、よい意見交換ができました。消防局にお勤めされていたご家族から、防災に関する知識や過去の大災害の際の経験談など貴重なお話を伺いました。また、ご家族の

困り事の一つとして「(当事者が)携帯電話に全く出てくれない。携帯が鳴っていることに気が付かない。」という意見がありました。複数のご家族が同じ悩みを抱えており、緊急時の連絡方法についての課題が見えた1コマでした。最後は「最近のプチ楽しみ」を皆様にお聞きしました。新型コロナウイルス感染症の影響も相まって不安やご苦勞のある中でも、それぞれにちょっとした楽しみを見つけながら過ごされており、和やかな雰囲気でご家族懇談会を終えることができました。

今回の新春交流会は新しい試みとして、オンラインを活用しての開催となりました。家族以外の方と交流する機会が制限されている状況下において、皆様のご理解とご協力のもとに、大変有意義な時間を過ごすことができました。しかしながら、やはり「顔を合わせて、その場の空気を共にする。」ことに勝るものはないようにも感じた1日でした。

### 訓練の ひとコマ ~ディスカッション~

今回はディスカッションのプログラムでの1コマをご紹介します。  
ディスカッションでは、約5名の利用者さんとスタッフ一人が輪になって座り、その日のテーマについてそれぞれ意見を言います。リラックスした雰囲気でご家族を楽しめるプログラムです。

ある日のテーマは「最近、自分に関して変化があったこと」でした。利用者 Aさんは「今年の3月に定年退職となり、生活環境が一変しました。これからどう過ごそうかと思ひ悩んでいます」と打ち明けました。そこでスタッフが「日中活動の場として作業所の見学に行かれたと聞きました。いかがでしたか?」とたずねました。すると、Aさんは「そうでしたか?いや、行ったかもしれませんが、覚えていません。なにせ私、『記憶障害』というものがありまして、よく忘れるんです。これで家族からよく怒られるんです(笑)。」と。その瞬間、参加者からはどっと笑いが起こりました。そして、すかさず「私も怒られます。」「僕もです。」と何人も続き、「いや、『忘れてるやん』と言われても、覚えていない我々にとっては初めてですからねえ。」というAさんの発言に、皆さんうなずいておられました。

リハビリテーションには“失敗が許される安全な環境”が大切だとよく言われます。こういった話を気軽にできる環境を作ってくださっている利用者さんに、改めて感謝した瞬間でした。(作業療法士 中岡)



## 堺市立健康福祉プラザ 生活リハビリテーションセンター

〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号 堺市立健康福祉プラザ内 4F

TEL.072-275-5019 FAX.072-243-0202

■開館時間 9:00~17:30 ■休館日 土・日・祝日・年末年始(12/29~1/3)

<http://www.sakai-kfp.info/>

バックナンバーはこちらから⇒

